



義務教育課だより 8月号「環境教育」



1. 社会が求める力と環境教育

「学習指導要領解説総則編」の第3章には、環境保全に関して、次のように述べられています。

「環境問題が深刻な問題となる中で、持続可能な社会の実現に努めることが重要な課題となっている。

そのためにも、生命や自然に対する感受性や、身近な環境から地球規模の環境へとつなげる豊かな想像力、それを大切にする態度が養われなければならない。」

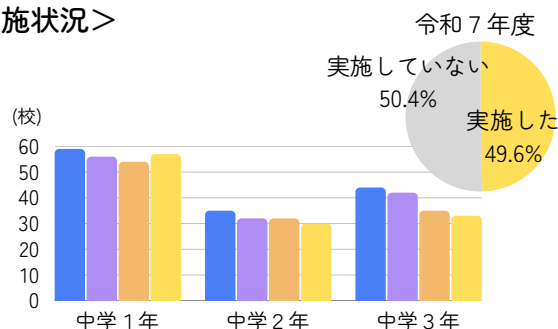
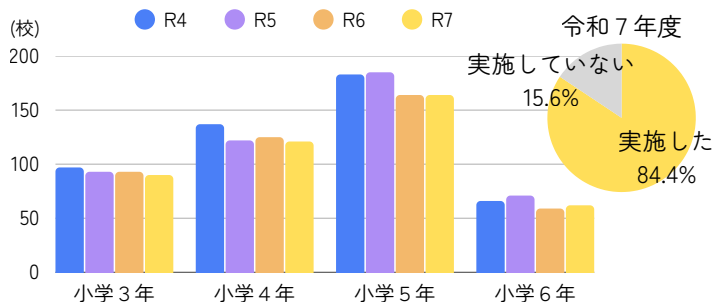
現代では、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっており、子供たちに求められているのは、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだす力です。環境問題は、まさに「答えのない（正解のない）問い」に対して、「自分なりの答え」を導き出すことが求められる探究課題です。

2. 愛媛県における環境教育の実施状況

「教育課程実施状況調査」より

環境問題については、様々な教科等の中で取り上げられていますが、総合的な学習の時間において取り組んでいる学校もあります。下の円グラフは、令和7年度に県内小学校の約84%、中学校の約50%が、総合的な学習の時間において「環境」に関する学習を実施していることを示しています。また、棒グラフは、令和4～7年度の学年別の実施校数を表しています。年度ごとの大きな増減がないことから、各校が「環境教育」を位置付けて取り組んでおり、探究の過程を通して、計画的に子供たちの資質・能力の育成に努めていることがうかがえます。

＜総合的な学習の時間における「環境」に関する学習の実施状況＞



3. 環境教育のポイント

愛媛県環境教育推進事業 研究推進校の取組より

本県では、平成20年度から環境教育推進事業を実施し、産業廃棄物の排出抑制や減量化、資源の循環的な利用についての理解を深めるとともに、子供たちに海や山、川など先祖から引き継がれてきた優れた環境を守り育てようとする態度の育成を目的として、研究推進校に環境教育の取組を推進していただいています。

＜研究推進校の取組例（令和7年度実施報告書より）＞

上島町立弓削中学校

- ・全校行事「ろ漕ぎ大会」に向けてのビーチクリーンプロジェクトの実施
- ・海洋ゴミの一因である「プラスチック問題」をテーマにしたワークショップの体験

久万高原町立仕七川小学校

- ・町内在住の環境マイスターによる環境プログラムにおいて、沢登りや藍染め、植林等の体験
- ・県地球温暖化防止活動推進センターによる「気候コミュニケーションプログラム」の受講

愛南町立家串小学校

- ・町出身の大学教授による講義
- ・地域で養殖されたヒオウギ貝を使った制作活動や塩作り体験
- ・総合的な学習の時間で海洋生物についての探究活動を行う「海学習」の取組

研究推進校の取組に共通しているポイントは、次の3つです。

- 実感を伴う【体験活動】を大切にしていること
- 自然環境や人材などの【地域資源】を生かしていること
- 子供たちの主体的な【解決に向けた実践】を積み重ねていること



これらのポイントを大切にしながら、計画的に、学校全体で共有しながら学習を進めることで、身近な環境から子供たちに「知りたい」という切実感が生まれ、地域の自然や人との関わりを通じて「分かった」ことが蓄積され、解決に向けた実践により「できた」という喜びを味わう経験につながっていくものと思います。

弓削中、仕七川小、家串小の3校は、今年度研究2年目を迎えます。11月には各校で研究会が開催される予定です。ぜひ参加していただき、その取組を肌で感じていただきたいと思います。

夏休みの時間を使って、「環境教育」の視点から、自校の全体計画や年間指導計画の見直しを進め、未来をたくましく生き抜く子供たちを育てていきましょう！